

〈 感想 〉 2010年9月20日～23日の間に、中国北京で開催された日中拠点都市環境項目第十八回学術研究会に参加し、英語の口頭発表を行いました。発表タイトルは **Drying Characteristics of Dewatered Municipal Sewage Sludge from Beijing and Osaka Using a Muffle Furnace** です。

本学会には廃棄物、水環境、大気環境に関わるセッションが設けられており、先生方の研究者をはじめ、現在京都大学、清華大学および両国の他大学で行われている最新研究や今までの研究成果を知ることができました。

今回の学会は中国と日本との間の学術交流を活発化させるイベントでもあり、これから中国の環境を改善するための新しい技術や地域特性に適した政策作りのためのよい刺激になったと思います。

また、大勢の前で第三言語を使い、時間通りに発表することの貴重な経験となりました。多くの実験結果の中から、一番伝えたいことをできるだけ簡潔に、わかりやすく伝えることの難しさと大切さを実感しました。どんなによい研究でも聴衆にインパクトを与えなければ注目されず、本来あるべき価値が下がってしまうことがあります。プレゼンテーションスキルをこれから注意して勉強していく必要性を感じました。さらに、国境を越え、世界を舞台としたときの英語の大切さを改めて認識しました。

今回、京都大学土木会より助成金をいただき、以上のような貴重な経験を積むことができました。心から深い感謝を申し上げます。